

地球の歴史の生き証人 ハナシノブ・ツクシマツモトなどの貴重な植物たち

【自然編／第2章 植物】

高森町のキャッチフレーズは、「野の花と風薫る郷」。根子岳や祖母山の麓に広がる草原に、数多くの野の花たちが咲き誇っています。春、野焼きの終わった草原にはキスミレやミチノクフクジュソウ、サクラソウなどが咲き始め、夏には高森町花のヒメユリをはじめ、ユウスゲ、ノハナショウブなど色とりどりの花たちが彩りを添えます。八月お盆のころになると、オミナエシやカワラナデシコ、サワヒヨドリなど秋の七草が咲き誇り、「盆花」として墓前に供えられました。秋になると、リンドウやウメバチソウ、ヤマラッキョウなどが咲いて、一年の終わりを告げます。

高森の植物の特徴は、ハナシノブやツクシマツモト、ヤツシロソウ、ケルリソウ、アソノコギリソウ、アソタカラコウなど、国内で阿蘇だけに生育する貴重な植物が数多く自生していることです。草原を彩るこれらの植物は、大陸系遺存植物と呼ばれ、朝鮮半島や中国東北部(旧満州)とに共通して分布しているものです。わが国では阿蘇久住で見られますが、他地域ではほとんど見られないものです。現在よりも気候が冷涼で、朝鮮半島と九州とが陸続きであった時代に、大陸から南下してきて、阿蘇とその周辺に遺存したものと考えられています。そして、阿蘇の火山活動と、野焼きや放牧・採草などの人間活動の影響によって草原状態が維持され続けたことと、高原の冷涼な気候に恵まれて現在まで残存したものと考えられています。これら大陸系の植物は、直接に口を開いて自らの歴史を語るわけではありませんが、阿蘇・高森に存在することによって、アジア大陸



認定NPO法人阿蘇花野協会
専務理事
瀬井 純雄

と九州とが陸続きであったことを語る「歴史の生き証人」となっています。

高森を代表する植物は、ハナシノブとヒメユリです。ハナシノブは、地球上で高森町内の野尻・草部地区と阿蘇市波野地区にのみ生育する植物です。環境省の調査によれば、これまで60地点ほどで自生が確認されていましたが、ほとんどの場所が植林や放棄によって姿を消しました。現在も自生している場所は、環境省の保護区など10地点ほどになっています。高森町花のヒメユリも、国内における分布域は広いものの、全国的に草原が激減する中で絶滅の危機に瀕していて、高森の草原は重要な生育地です。これらの植物は、学術的に貴重であり希少価値からもその保全が極めて重要なものです。野の花と風薫る郷のシンボルとして、ぜひとも後世に引き継いでいきたい植物たちです。



ハナシノブ

サンショウウオの宝庫!? 高森町の両生類

【自然編／第3章 動物(哺乳類、爬虫類、両生類、淡水魚、昆虫)】

高森町には牧野や草原、水田といった阿蘇を象徴する環境に加え、根子岳や祖母山のブナ林、白川、大谷川、川走川の渓流など、実に様々な環境があり、数多くの生きものが暮らしています。特に両生類の種数の多さは注目すべきもので、今回の高森町史の調査では、現地調査と文献記録から15種もの両生類が確認されました。これまで熊本県で確認されている両生類の種数は20種なので、その75%が高森町に生息していることになります。以下でその中身を、無尾類と有尾類とに分けて紹介します。

〈無尾類(カエル類)〉

熊本県内に生息している全ての在来種、すなわち、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルの10種が確認されました。一方、県内で平野部を中心に蔓延しているアメリカ原産のウシガエル(特定外来生物)が確認されなかったことから、高森町では比較的健全な水域生態系が保たれている様子が窺えました。

〈有尾類(イモリ・サンショウウオ類)〉

現地調査で、アカハライモリ、オオイタサンショウウオ、ソボサンショウウオが確認されました。また、現地調査では確認できませんでしたが、文献記録からベッコウサンショウウオとコガタブチサンショウウオの生息も確認され、合わせて5種の有尾類が高森町から確認されました。日本に生息しているサンショウウオ類はほとんどの種で地域固有性が高く、また、同様の繁殖様式をもつ種どうしが地理的に棲み分けていることが多いため、1つの市町村に4種ものサ

ンショウウオ類が生息しているところは県内でも他にないものと思われます。九州の中央部に位置し、水系の異なる複数の渓流が町内を流れている高森町の地勢が生んだ“奇跡”と言えるでしょう。特にソボサンショウウオ(国内希少野生動植物種)は、県内では高森町のごく限られた場所のみに生息しており、オオイタサンショウウオも県内では高森町から産山村にかけての県境部のみに生息しています。また、ベッコウサンショウウオ(熊本県指定天然記念物)の生息も特筆され、この記録により従来知られていた本種の分布北限(山都町蘇陽峡付近)が更新されることになりました。

高森町におけるこうした両生類の多様性の高さは、そこに住む人々が水辺や森を大切に守り育ててきたことにより現在まで維持されてきたものです。この愛らしい生きものたちを“地域の宝”として認識し、次世代へと伝えていくことは、結果として彼らが暮らす美しい水辺や森を次世代に伝えていくことにも繋がるのではないのでしょうか。



ソボサンショウウオ(全長15cm前後)



熊本県
博物館ネットワークセンター
博物館活動囑託(動物)
中園 洋行